

令和3年度 全国学力・学習状況調査 各教科改善のポイント

国語（小学校）

①領域等の定着状況

	全体 (%)	話すこと・ 聞くこと (%)	書く こと (%)	読む こと (%)	言葉の特徴や使 い方に関する事 項 (%)
全国	64.7	77.8	60.7	47.2	68.3
広島県	66	79.1	64.0	48.4	69.6
三原市	65	75.9	63.8	44.9	70.9
県差	-1	-3.2	-0.2	-3.5	+1.3

②課題

正答率下位3問

問題の概要	領域	正答率 (三原市)	正答率 (県全体)	差
目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。 [2]四	読むこと	27.9	30.6	-2.7
目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付け、まとめて表現する。 [2]三	読むこと	32.0	35.9	-3.9
文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。 [3]三(2)オ	言葉の特徴や使 い方に関する事項	45.1	44.5	+0.6

県差下位3問

問題の概要	領域	正答率 (三原市)	正答率 (県全体)	差
文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握し、選択肢から適切なものを選ぶ。 [2]一	読むこと	74.7	78.7	-4.0
自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考え、選択肢から適切なものを選ぶ。 [3]一	書くこと	62.3	66.1	-3.8
目的や意図に応じ、資料を使って話す場面で、資料に適したスピーチ内容を選ぶ。 [1]三	話すこと・聞くこと	78.1	81.6	-3.5

課題・気づき

- ・全体では、県平均より1ポイント低い。特に、話すこと・聞くこと、読むことの領域で県平均との差が3ポイント以上ある。
- ・文章全体の構成や展開を考える問題、目的に応じて文章や図表から必要な情報を見付けまとめて書く問題での正答率が低い。身に付けた知識・技能を活用する力が求められる。

改善策

文章構成や展開を考えさせる授業を展開する

- ・文章を部分的に取り上げて内容を詳しく読むだけではなく、文章全体の構成を捉えながら読ませるようにする。例えば、「本論にはいくつの事例が挙げられているか。」考えさせ、そう考えた理由（内容のまとめや重要な語句、文末表現、問いと答えの関係等）を交流することを通して、文章構成についての理解を深めようとする等の展開が考えられる。

情報を関連付けて読ませる授業を展開する

- ・文章や図表から必要な情報を見付けさせるために、目的を明確にした読む活動を仕組む。例えば、「この図と関係している段落はどこか。」と問い、文章と図表の結びつきを考えたり、語句と語句の関連性を図示したりし、お互いの考えを交流することで理解を深めることができるようにする。

令和3年度全国学力・学習状況調査 各教科改善のポイント

算数

①領域等の定着状況

	全体 (%)	数と計算 (%)	図形 (%)	測定 (%)	変化と関係 (%)	データの活用 (%)
全国	70.2	63.1	57.9	74.8	75.9	76
広島県	70	63.6	57.2	75.1	76.2	76.2
三原市	68	62.6	54	72.5	74	73.7
県差	-2.0	-1.0	-3.2	-2.6	-2.2	-2.5

②課題

正答率下位3問

問題の概要	領域	正答率 (三原市)	正答率 (県全体)	差
二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを記述することができる。2(3)	図形	43.7	46.7	-3.0
直角三角形の面積を求める式と答えを記述することができる。2(1)	図形	50.0	52.3	-2.3
二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ。1(3)	変化と関係	50.1	55.6	-5.5

県差下位3問

問題の概要	領域	正答率 (三原市)	正答率 (県全体)	差
データが二次元の表のどこに入るかを選ぶ。3(3)	データの活用	61.3	67.3	-6.0
二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ。1(3)	変化と関係	50.1	55.6	-5.5
直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。2(2)	図形・測定	68.4	72.6	-4.2

課題・気づき

- 全体では、は全国平均及び県平均より約2%低い。また、数と計算、図形、測定、図形、変化と関係、データの活用の5領域において、県平均を下回った。特に、図形領域において県平均との差が大きく、続いて測定、データの活用、変化と関係において差が見られる。
- 正答率下位3問の中で2問が記述式の問題です。求め方や理由等を説明することにおいて課題がある。

改善策

事実・方法・理由を記述する場面を授業で設定する

- 算数科の記述式の問題は、「事実」・「方法」・「理由」の3種類を問う内容で出題されている。授業者は、単に「説明しましょう。」と発問するのではなく、「事実」・「方法」・「理由」のうち、いずれを説明させるのかを意識して発問する。さらに児童が3種類の説明の仕方を意識して記述できるように指導する。

数量やその関係を捉えて立式して求めた結果の意味を考察し、表現する場面を授業で設定する

- 算数科の学習では、具体的な場面に対応させて、事柄や関係を式に表して結果を導く場面が多いが、立式や答えの意味(例：速さを求める除法の式や商の意味)を理解していない場合がある。授業者は、式や答えが何を求め、何を表しているのか、式や答えの意味を児童が表現する場を設定する。

図形の求積方法を公式化した後に、公式の理解を深める活用場面を授業で設定する

- 基本図形の求積方法の理解を深めるために、求積図形の提示方法を工夫する。例えば、求積図形の高さを認識しにくい向きに変えて提示したり、2つ以上の三角形を組み合わせてできた図形を求積させたりすることが考えられる。単元を通して、常に求積する際には、図形を構成する要素に着目して、どの部分の長さを使う必要があるのか、図形と式を関連付けて表現する場を設定する。

令和3年度全国学力・学習状況調査 各教科改善のポイント

国語（中学校）

①領域等の定着状況

	全体 (%)	話すこと・ 聞くこと (%)	書くこと (%)	読むこと (%)	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項 (%)
全国	64.6	79.8	57.1	48.5	75.1
広島県	65.0	80.6	58.6	48.8	73.3
三原市	66.0	82.3	59.1	50.0	76.3
県差	+1	+1.7	+0.5	+1.2	+3.0

②課題

正答率下位3問

問題の概要	領域	正答率 (三原市)	正答率 (県全体)	差
書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。 [2]一	書くこと	24.4	26.2	-1.8
文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもち、表現する。 [3]四	読むこと	25.4	22.7	+2.7
文脈の中における語句の意味を理解する。 [3]一	読むこと	40.1	43.0	-2.9

県差下位3問

問題の概要	領域	正答率 (三原市)	正答率 (県全体)	差
文脈の中における語句の意味を理解する。 [3]一	読むこと	40.1	43.0	-2.9
書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。 [2]一	書くこと	24.4	26.2	-1.8
文脈に即して漢字を正しく読む。 [4]一②	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	87.9	87.6	+0.3

課題・気づき

- ・全体では、全国平均より1.4ポイント、県平均より1ポイント高い。全ての領域で、全国平均及び県平均を上回っている。
- ・文脈の中における語句の意味理解、文章を書き直した意図を考える問題での正答率が低い。身に付けた知識・技能を活用する力が求められる。

改善策

文脈の中における語句の意味を理解させる授業を展開する

・文章中の語句が表す意味を問う授業を設定し、前後の文章の関係や登場人物の性格、行動などに注目して、その語句が表す意味について話し合う学習を通して、文脈における意味の捉え方を身に付けられるようにする。

文章構成の工夫について考えさせる授業を展開する

・「多様な読み手を説得できる文章に不可欠なものはなにか」という問いを持たせ、話し合ったことをもとに、テーマに沿った意見文を書かせることを通して、論理の展開を考えて文章構成を工夫する力を育てる。また、自分の意見を書き、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性へと結び付ける書き方などの書き方の基本を学び、各段落の働きを意識して書いたり推敲したりできるよう指導する。

令和3年度全国学力・学習状況調査 各教科改善のポイント

数学

①領域別の定着状況

	全体 (%)	数と式 (%)	図形 (%)	関数 (%)	資料の活用 (%)
全国	57.2	64.9	51.4	56.4	53.8
広島県	57	64.5	50.9	56.1	53.5
三原市	55	62.5	47.8	54.6	51.9
県差	-2.0	-2.0	-3.1	-1.7	-1.6

②課題

正答率下位3問

問題の概要	領域	正答率 (三原市)	正答率 (県全体)	差
グラフの特徴を基に、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 [8] (3)	資料の活用	8.6	10.5	-1.9
与えられた表やグラフを用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 [7] (2)	関数	25.7	27.8	-2.1
錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を、記号を用いて表すことができる。 [9] (2)	図形	26.4	28.4	-2.0

県差下位3問

問題の概要	領域	正答率 (三原市)	正答率 (県全体)	差
具体的な場面の数量の関係を、一元一次方程式で表すことができる。 [2]	数と式	65.8	70.6	-4.8
相対度数の必要性と意味を理解し、2つの分布の傾向を比べるための前提となっている考えを選択できる。 [8] (2)	資料の活用	31.2	35.8	-4.6
平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができる。 [9] (1)	図形	40.0	44.2	-4.2

課題・気づき

- ・全体では、全国平均及び県平均より約2%低い。また、すべての領域において県平均を下回っており、特に図形領域は-3.1%と県平均との差が大きい。
- ・正答率下位3問は、すべて「数学的な見方・考え方」の観点の問題である。また、そのうち2問は記述式の問題である。

改善策

事実・方法・理由を記述する場面を授業で設定する

- ・数学科の記述式の問題は、「事実」・「方法」・「理由」の3種類を問う内容で出題されている。授業者は、単に「説明しましょう。」と発問するのではなく、「事実」・「方法」・「理由」のうち、いずれを説明させるのかを意識して発問し、根拠を明確にして記述できるように指導する。

数学的な見方・考え方を働かせる場面を設定する

- ・説明をする問題に課題があるので、課題を把握する場面で解決に必要な情報や数値等にアンダーラインをひかせるなどして、何を求める問題なのか、そのために利用できる情報は何かを生徒に表現させ、どのように解決すればよいか見通しを立たせる。
課題解決後に、解決方法を振り返り、どのような見方・考え方を活用すれば問題が解けるかを自分のことばでまとめさせ、振り返りシートなどでいつでも活用できるように蓄積していく。